

綾瀬市教育委員会会議録

令和7年12月定例会

令和7年12月18日開議

綾瀬市教育委員会

出席委員

教 育 長	袴 田 毅 君
教 育 長 職 務 代 理 者	田 中 恵 吾 君
委 員	亀ヶ谷 由美子 君
委 員	齊 藤 隆 訓 君
委 員	林 紀 美 子 君

事務局職員

教 育 部 長	大 矢 博 之 君
教 育 総 務 課 長	三 田 哲 郎 君
参 事 兼 学 校 教 育 課 長	山 上 貴 司 君
学 校 給 食 セ ン タ ー 所 長	比 留 川 晋 一 君
参 事 兼 教 育 指 導 課 長	春 木 純 子 君
参 事 兼 教 育 研 究 所 長	渡 邊 倫 康 君

書 記

教育総務課総務担当主幹	関 洋 平
教育総務課総務担当主任主事	野 尻 裕 一

令和7年綾瀬市教育委員会会議12月定例会議事日程

令和7年12月18日（木）午後1時30分開議

日程第1		会議録署名委員の指名について
------	--	----------------

議案

日程第2	第34号議案	令和7年度綾瀬市教育委員会表彰被表彰者の決定について
------	--------	----------------------------

報告

日程第3	第10号報告	令和7年度第3回綾瀬市中心身障害児童・生徒就学指導委員会で判定された幼児・児童の学校（学級）指定の報告について
日程第4	第11号報告	「令和7年度全国学力・学習状況調査」結果の分析について

午後1時30分 開会

○教育長（袴田毅君）

あらかじめご報告をさせていただきます。

本日の会議には、現在のところ傍聴の申し出者はございませんが、会議途中で傍聴の希望があった場合は、随時、入室を許可したいと思いますので、よろしくお願いたします。

ただいまの出席者は5名であります。定足数に達しておりますので、これより、綾瀬市教育委員会会議12月定例会を開会いたします。

○教育長（袴田毅君）

「日程第1 会議録署名委員の指名」をいたします。会議録署名委員に、田中職務代理者を指名いたします。

○教育長（袴田毅君）

ここで、本日の議事日程についてお諮りいたします。

「日程第3 第10号報告 令和7年度第3回綾瀬市心身障害児童・生徒就学指導委員会で判定された幼児・児童の学校指定の報告について」は、個人情報が含まれるため、綾瀬市教育委員会会議規則第8条第1項第3号の規定により、非公開審議にしたいと存じます。

お諮りいたします。本件を非公開審議とすることについて、賛成の委員の挙手を求めます。

（ 委員の挙手確認 ）

○教育長（袴田毅君）

挙手全員であります。

よって第10号報告は、非公開審議とすることに決しました。

なお、議事進行上、本件につきましては最後に審議いたします。

○教育長（袴田毅君）

「日程第2 第34号議案 令和7年度綾瀬市教育委員会表彰被表彰者の決定について」、この件を議題といたします。

それでは、本件について説明を求めます。

教育部長、お願いたします。

○教育部長（大矢博之君）

それでは、「第34号議案 令和7年度 綾瀬市教育委員会表彰 被表彰者の決定について」、御説明いたします。

議案書の3ページを御覧ください。

提案理由でございますが、中段に記載のとおり、教育に貢献のあった個人及び団体を表彰いたしたく、綾瀬市教育委員会教育長に対する事務委任等に関する規則第2条第1項第15号の規定により、提案するものでございます。

被表彰者の選定につきましては、教育委員会の各所属や各小・中学校から、候補者を推薦していただいております。

また、市の広報及びホームページに表彰候補者の推薦について案内を掲載し、推薦を受け付けたものでございます。

候補者につきまして、11月18日に、教育長を委員長とした、教育委員会の各所属長及び生涯学習課長を委員とする選考委員会を開催し、候補者の選考を行いました。

選考の結果、今年度の被表彰者は、議案書5ページのとおり個人が35名、団体が4団体、併せて39の個人・団体となっております。

それでは、表彰内容につきまして御説明を申し上げます。

6ページを御覧ください。

一覧は、左から順に、番号、区分、被表彰者氏名、功績事項、該当基準、受賞歴となっております。

はじめに（1）自主的研究または特別な研究により、学術上または、教育上顕著な成果を上げた方でございます。

1番の木下氏は、第10回 大村はま 奨励賞を、受賞されております。

本賞は、45歳以下の教員による優れた国語単元学習の実践を表彰するもので、全国から年間1名のみが受賞対象となります。

次に、（2）学校嘱託医又は学校薬剤師として尽力し、その功労が顕著な方でございます。

2番から4番までの市川氏、笠井氏、宮内氏は、綾瀬市学校嘱託医を8年以上務めていただいております。

5番の森野氏は、綾瀬市学校薬剤師を8年以上務めていただいております。

次に、（3）社会教育活動に尽力し、その功労が顕著な方でございます。

6番の谷田氏は、PTA連絡協議会の会長を1年以上務められ、退任されております。

次に、7ページを御覧ください。

(4) スポーツ的分野又は文化的分野の活動において、優れた成績を収めた方、又は団体でございます。

7番の鈴木さんから9ページの37番、綾瀬市立綾南小学校PTAまで、小・中の順、個人・団体の順で記載してございます。

合計いたしますと、31の個人・団体が、スポーツ的分野又は文化的分野の活動において、優れた成績を収められております。

最後に、(5) ボランティア活動に尽力し、その功労が顕著な団体でございます。

38番の中村自治会4区見守り隊は、10年以上にわたり、綾瀬小学校の通学路において、児童の登校を見守り、児童の安全な学校生活のため尽力しております。

39番の土棚小学校よみきかせの会は、平成19年から現在まで18年以上にわたり、朝のよみきかせを行い、児童の心の健全な育成を目指して尽力をされております。

表彰内容の説明につきましては、以上でございます。

なお、表彰式につきましては、令和8年2月11日水曜日に、綾瀬市オーエンス文化会館小ホールにおいて開催する予定でございます。

以上で説明とさせていただきます。よろしくお願いたします。

○教育長（袴田毅君）

それでは、第34号議案に関しまして、質疑・討論がございましたらお願いたします。

田中職務代理者。

○教育長職務代理者（田中恵吾君）

2点ほど質問いたします。

まず1点目は、要綱の第二条第二号の規定によって、個人が表彰される事例はこれまでありましたか、というのが一つ。

2点目は、同じ第二条第二号に関わる大村はま奨励賞というものの重み、あるいは、大村はま先生に関しての情報があれば、ご教授いただければと思います。

以上2点です。

○教育長（袴田毅君）

はい、教育総務課長。

○教育総務課長（三田哲郎君）

ただいまの質問にお答えをさせていただきます。

まず、この個人でこういった表彰が過去にあったのかという御質問でございますが、過去、規定が変わりまして今の現規定の中では個人の表彰は、これが初めてでございます。

また2点目の質問につきましては、この賞がどんな賞なのかというところでございますが、大村はま氏につきましては、もともと「大村はま記念国語教育の会」という団体がありまして、一人一人の子供の言葉の力を育てるために、日々、国語単元学習を実施、実践し続けたというところの部分で初代の会長でありまして、長く日本国語教育学会の会長であられました倉澤栄吉先生が、このことを21世紀に向けて単元学習が必要欠くべからざるものであるということを強調していたという記述がございまして、こういった部分ではなかなか日本の国語教文の中では、権威のある賞であるというふうに捉えております。

先ほど部長の答弁でもありますが、年間で1件というところの部分では特に選ばれた方だというふうに認識しておりますので、そういった賞でございます。

以上です。

○教育長（袴田毅君）

田中職務代理人。

○教育長職務代理人（田中恵吾君）

大変すばらしい事だと捉えています。

これも先生方、あるいは学校の本当に熱心な取組の成果だと思っています。

そういう意味から、高く、高く評価したいと思っています。

それから今後もこういう45歳以下の先生方を対象にしたというお話がありますので、中堅の先生、若手の先生方へのバックアップもぜひ今後も続けてほしいと思います。

以上です。

ありがとうございました。

○教育長（袴田毅君）

はい、ほかにございますか。

林委員。

○委員（林紀美子君）

7ページのナンバー15、16、17のサッカーで大会に出場したお子さんになりますが、所属チームが書かれていないのですが、個人で神奈川選抜とかで選ばれての大会参加なのかどうか教えていただきたいです。

○教育長（袴田毅君）

はい、教育総務課長。

○教育総務課長（三田哲郎君）

ただいまのナンバー15、16、17のお子さんの通常の部分でチームなのか、個人なのかと

いうところでございます。

お聞きしましたところ、チーム丸々が選抜代表ということで選ばれておりますので、今回の件に関してはチームで表彰を受けたというものでございます。

○教育長（袴田毅君）

はい、よろしいですか。

○委員（林紀美子君）

ありがとうございます。

○教育長（袴田毅君）

他はいかがでしょうか。

齊藤委員。

○委員（齊藤隆訓君）

8ページの、3番の方で、アイスホッケーというのは僕は初めて見たんですけど、練習場はどちらのほうになるのか分かっているのであれば教えてください。

○教育長（袴田毅君）

はい、教育総務課長。

○教育総務課長（三田哲郎君）

アイスホッケーの広さの部分でどこを練習場所で使っているのかというところでございますが、表彰の申請の中で、活動場所までは市では聞いておりませんが、県内でリンクがあるところは限られております。

そうした中で、横浜市に横浜銀行アイスアリーナというところがございます。

またK O S E新横浜スケートセンターというところがございます、また相模原市にも銀河アリーナというところがあります。

恐らくこの辺りが練習会場ではないかと捉えております。

○委員（齊藤隆訓君）

ありがとうございます。

○教育長（袴田毅君）

よろしいですか。

他はいかがでしょうか。

（ 質疑等の有無確認 ）

○教育長（袴田毅君）

質疑・討論なしと認めます。

これより、第34号議案を採決いたします。

本件を原案のとおり決することについて、賛成の委員の挙手を求めます。

(委員の挙手確認)

○教育長（袴田毅君）

挙手全員であります。

よって、本件は原案のとおり可決されました。

○教育長（袴田毅君）

「日程第4 第11号報告 「令和7年度全国学力・学習状況調査」結果の分析について」、この件を議題といたします。

それでは、本件に関し説明を求めます。

教育部長、お願いいたします。

○教育部長（大矢博之君）

それでは、第11号報告、「令和7年度 全国学力・学習状況調査結果の分析」について御説明いたします。

令和7年4月17日に、小学校6年生と中学校3年生を対象に実施いたしました全国学力・学習状況調査の結果が文部科学省より7月31日に公表されました。

9月5日には、個人結果を保護者へ配付しております。

教育委員会におきましては、9月8日に市のホームページへ平均正答率、今後の対応などについて速報を掲載しておりますが、詳細な分析結果がまとまりましたので、ご報告させていただくものです。

それでは、報告書の6ページを御覧ください。

小・中学校別の各教科の調査結果につきましては、綾瀬市の結果と全国の結果を比較しております。

各教科でお示ししております「教科の結果概要」の「平均正答率」ですが、神奈川県では小数点第一位を四捨五入した整数で集計しておりますことから、綾瀬市も県に準じて整数での表記としております。

全国は小数第一位までの表記となっております。

始めに「小学校」の「国語」でございます。

本市の平均正答率は61%、全国小学校の平均正答率は66.8%となっており、7ページの

【正答率が最も高かった問題】につきましては、図表などを用いて、自分の考えが伝わるように

書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題でした。

次に8ページから、「算数」でございます。

本市の平均正答率は50%、全国小学校の平均正答率は58%となっており、9ページの【正答率が最も高かった問題】は、角の大きさについて理解しているかどうかをみる問題でした。

次に10ページから、「理科」でございます。

本市の平均正答率は51%、全国小学校の平均正答率は57.1%となっており、11ページの【正答率が最も高かった問題】は、数量関係を、□を用いた式に表すことができるかどうかをみる問題でした。

次に12ページからは、「中学校」の「国語」となります。

本市の平均正答率は51%、全国中学校の平均正答率は54.3%となっており、【正答率が最も高かった問題】については、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができるかどうかをみる問題でした。

次に14ページから、「数学」でございます。

本市の平均正答率は45%、全国中学校の平均正答率は48.3%となっており、【正答率が最も高かった問題】については、必ず起こる事柄の確率について理解しているかどうかをみる問題でした。

次に16ページから、「理科」でございます。

中学校の「理科」に関しては、CBTでの実施となり、それに伴いIRTスコアが採用されました。

IRTは項目反応理論といい、単に正答数を数えるのではなく、各問題の難易度や特徴を考慮し、児童・生徒一人一人の実力をより正確に把握する方法です。

IRTスコアは「全国の中でどの位置に綾瀬市の児童・生徒がいるのか」を表す指標として活用するものであり、スコアが高いほど相対的に能力が高いことを表しています。

本市の平均IRTスコアは494、全国中学校の平均IRTスコアは503となりました。

また、IRTバンド分布グラフをみると、全国中学校と比べて大きな差は見られないことがわかります。

各教科の「区別平均正答率・平均無解答率」を見ると、無解答率が小学校では高く、中学校では低くなっています。

18ページからの各教科の「児童生徒質問紙」の解答時間についての質問と併せてみると、全国と比較して、小学校は解答時間が十分でない、中学校は十分であると回答している割合が高くなっています。

また無解答率の高低に関わらず、問題形式「記述式」の平均正答率を見るとまだ課題が残っていることがわかります。

学習した知識を身の回りの事物や現象と関係づけて考える力や、目的に応じて文章と情報を結び付けて説明する力を育てる必要があると考えられます。

23ページからの「児童生徒質問紙 生活・学習」では「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合を合わせたものを全国と比較しております。

25ページの質問(16)「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。」という質問について、小学校は71.1%、中学校は74.2%が肯定的な回答をしています。

クロス集計の結果からも、肯定的に解答している児童・生徒ほど教科の正答率が高いという結果がでており、「自ら学ぶ力」を育む指導の大切さがわかります。

28ページでは、(29-1)～(29-4)にわたって質問されたICT機器の活用についてがまとめられています。

グラフを確認すると、インターネットを活用しての情報収集は小・中学校ともに80%を超えているものの、その他については50～70%程度に留まっています。

特に(29-3)の情報を整理する場面における活用については、小・中学校ともに50%を下回っています。

27ページの質問、下段(28)のPC・タブレットの使用頻度の質問と併せてみると、使用する機会は増加傾向にあるものの、活用場面が偏っている可能性があることがわかります。

これらの回答結果から、ICT機器の活用についてのハードルは下がりつつあり、多くの児童・生徒が活用しようとしているものの、使うべき場面・使うことが効果的な場面が理解されていないことが予想されます。

29ページにある情報活用能力体系表を参考にしながら、児童・生徒の情報活用能力を高めるとともに、指導する教職員のICTへの知識を高めていくことが有効なICT機器活用につながると考えられます。

30ページを御覧ください。

下段の質問(40)「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて、情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」の「経年変化」を見ると、小学生は昨年より減少しているものの、平成28年以降、小・中学校ともに、増加傾向にあることがわかります。クロス集計の結果からも、この質問に肯定的に回答している児童・生徒ほど教科の正答率が高いという結果が出ています。

25ページの質問(16)の結果及びクロス集計の結果と併せてみても、「自分で」課題を立てたり「自分で」情報を集めたりする「自分で学ぶ力」の大切さが改めて示されています。

今後の指導においても児童・生徒が自ら学びたいと思う学習環境を作ることを心がけるように意識していくことが必要であると考えられます。

32ページから36ページは、小学校の保護者へ配付する、分析結果でございます。

同様に、中学校の保護者へ配付するものは、37ページから41ページに掲載しております。

以上が今回の調査結果の御報告でございます。

教育委員会といたしましては、今後、明らかになった課題の解決をめざして、学校運営や教職員の指導方法の改善を図るとともに、保護者配付資料を活用し、家庭とも連携して取り組んでいきたいと思っております。

以上で説明とさせていただきます。

よろしく願いいたします。

○教育長(袴田毅君)

それでは、第11号報告に関しまして、質疑等がございましたらお願いいたします。

亀ヶ谷委員。

○委員(亀ヶ谷由美子君)

はい、6ページの小学校の国語についてになりますが、これはCの読むことが全国平均と比べるとかなり下回ってしまっていて、どの小学校も学校図書館とても充実しているのですが、今後も積極的に活用していただいて、読む力をつけてもらえたらと思います。

あと無回答率についてになりますが、これは去年もお話しさせていただきましたが、例えば今回18ページの方にアンケートが載っておりますが、時間が足りないという比率が全国平均よりも上がってしまっていて、この無回答率の問題をどうするか、何か対策など今もし考えられているようでしたら教えていただきたいです。

あと中学生の理科のところですが、16ページになります。ここは逆に無回答率が3項目もゼロがあるのにちょっと驚きまして、ふと見ていたらの問題が選択式だったという事で、諦めないで無回答にせず選んだんだなと、よく頑張ったんだなと思いました。

何回か学校で理科の実験の授業を見たことがありますが、みんな子供たち、実験を苦にしているのではなく、楽しく取り組んでいて、先生の注意事項なども、すごく真面目に聞いているんですね。黒板に書かれたことをよく読んでいたり、綾瀬の子供たちが、この数字から見ても、理科が結構好きなんじゃないかなと思います。今後これをさらに上げることに對する何かこう対策とかがもしあるのであれば、一緒に教えていただきたいと思っております。

○教育長（袴田毅君）

教育研究所長。

○教育研究所長（渡邊倫康君）

はい、何点かいただきましたので御回答させていただければと思います。

1点目の国語に関するところにつきましては、今、委員がおっしゃられたように、Cの読むことというところが、やはり、正答率的にととも下がっているなというふうには、我々も感じております。

その対策といたしまして、そしてまた、7ページを御覧いただきたいと思いますが、そちらの7ページの右側に書かれておりますが、正答率が最も低かった問題とあります。こちらについても、今お話にあったC読むことに該当するものになります。

こういったところから目的に応じて必要な情報を見つけるために、文書の中から必要な情報を取捨選択したり、文章や図表などと結びつけたりすること、そういったことが重要であるなというふうに考えております。

そういったところでは委員の方からもありましたが、図書室の学校図書館の活用といいますか、より読書に親しむようなこと、また読書以外のところでも、他教科でも資料からこういったことを読み取れるのか、そういったところを、日頃から慣れ親しんでいくようなこと、そういったことも必要かなというふうに思っております。

また令和6年度から、「よむよむワークシート」といった取組もございます。

そういったところを文章に慣れ親しんだり、図表に慣れ親しんだりといったところもありますので、そういったところを粘り強く、取り組むことも一つかなというふうには考えております。

2点目の無回答率についてのお答えでございます。

無回答率、非常に今回も特に中学校のほうで一生懸命回答をしようとする、そういった意欲を感じ取れます。

日頃から各学校、授業を拝見しましても、まずは、自分の考えをしっかりと持つこと、そして、それを文章で表現すること、そういったところに力を入れて取り組んでいる授業をたくさん見ることが出来ます。

ある学校では、校内研究の一環として、授業の最後の振り返りの時間というのをとても大事にしております、そういったところで、自分の考えをしっかりと書くというようなところを、学校挙げて取り組んでいる学校もございます。

そういったところで子供たちの各抵抗感をなくしていったら、無回答率というところも、今後引き続き改善していけたらというふうに考えております。

最後に理科のところ、中学校の理科のところ、御意見をいただきましたが、我々としても中学校の理科、スコア的に見ると、若干全国から下回っている部分もございますが、非常によい結果であったというふうに認識をしております。

多くの学校で理科、非常に子供たちも意欲的に取り組んでいる部分もございますので、こういったところを、いいところをしっかりと評価をして、子供たちの意欲につなげていけたらというふうに考えております。

以上でございます。

○教育長（袴田毅君）

他にございますか。

齊藤委員。

○委員（齊藤隆訓君）

まず1点、結果を踏まえて今後、綾瀬の教育として、どういう方向に今進んでいくのかというところ何か方向性があったら教えていただきたいと。

もう1点は、よむよむワークシートって僕すごくいいと思っているんですね。

それに対してどれぐらいの期間を考えてやっているのかと、あとこれをやったことによって先生たちの時間もちょっと取られてしまうということがあるので、この先生たちから見たこのよむよむワークシートの評価ってどういう感じなのか、そっちのほうを教えていただきたいなというふうに思います。

○教育長（袴田毅君）

教育研究所長。

○教育研究所長（渡邊倫康君）

今いただいた御質問の中で、方向性といったところをお答えをさせていただきますが、大きな方向性という部分では、ちょっとなかなか、私のほうからというところもありますので、この全国学力学習状況調査についての考え方というようなところでお話をさせていただければと思いますが、まず文科省がこの全国学力学習状況調査を行っている目的としては、児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育の施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童・生徒への学習・指導の充実や学習状況の改善等に役立てるとなっております。

なので文科省の目的にあるとおり、この今回の全国学力学習状況調査の結果の分析を通して、本市の子供たちが苦手としていることや、つまづいていること、また、よい効果を上げていること、こういったところをしっかりと分析し、今後の学校への指導、助言等に役立てていければなどというふうに考えております。

以上でございます。

○教育長（袴田毅君）

教育指導課長。

○教育指導課長（春木純子君）

2点目のよむよむワークシートの御質問についてでございます。

まずこちらのよむよむワークシート、取組の期間としましては、3年間は継続して取り組むことを決めております。

その後につきましては、今後、検討していきたいと考えております。

また、先生方の反応についてでございます。

昨年度、小学校5年生6年生でよむよむワークシートを実施しておりますので、児童・先生方にそれぞれアンケートをとっております。

まず、先生方の反応になりますが、最初に子どもたちの反応としまして、大きく2つございます。

いろいろな記事に出会えてよい、自分の知らないことが書いてあって知識が増えた、とても好評な部分とすごく難しかった、新聞を読むのがこんなに難しいとは思わなかった、ということで難しさの余り、読むことを苦に思ってしまう、そういったアンケートの記述がございました。

これを受けて先生方の反応としましては、主に難しくとらえている児童に対するアンケートとしまして、そういった文章が難し過ぎて読む前から諦めてしまうことがないように、またはそういった読解力の向上に役立つ部分もあるとは思うが、問題の解き方を学ぶとかその解説というところで工夫が必要であると、そういった先生方の御意見をいただいております。

○委員（齊藤隆訓君）

いいですか、自分の意見で、このよむよむワークシートって本当にすごいなっていうふうに思っていて、これはなぜかというと、読み解く力をつけるというんですけど、今、AIの時代にどんどんなっていて、もう5年後には世界が激変するぐらいの変化が起きると思うんですね。

そのときに、コンピューターサイエンスを学んだから、仕事があるとかそういう世界じゃなくなってきた時に、一番重要なのが、一般教養、リベラルアーツと呼ばれているものが今世界ですごく重要視されている。

その中でこういう新聞を、今、大人ですら新聞読まなくなっている中で、こういうチャンス子どもたちに与えられる、この綾瀬市の今の教育の仕組みってのは本当に素晴らしいなというふうに思いますんで、3年とは言わず、10年、そういうふうにやっていただきたいなというふうに思います。

それは自分の意見です。

以上です。

○教育長（袴田毅君）

ちょっと私のほうから補足です。全国学力調査の結果を捉えて、教育委員会としての方向というところで。

一つは今の特徴としては、小学生のときにまだちょっとこう全国との正答率では開きがあるのが、中学校3年になると大分こう、差が改善されてくると、そういったところで、今おそらく取り組んでるいろんな指導などはもう間違っていないなと思っています。

では今何をやっているかという、一番大きなのがやっぱり綾瀬市型の小・中一貫教育ということで、定着してきたところもありますが、もう少し時間をかけてやっていく必要があるかなと。どうしても形から入るところもあって、今の教育の中身とはちょっとその相反する部分もありますが、まずはでもいろんなところで一旦取り組んでみて、そこからもう少し、それこそ最終的には、9年間の市内統一の教育課程というか、そういったものを目指していきたいと考えています。

今のところの特徴というか、無回答率の低さというのは、さっきちょっと言っていましたが、いわゆる学校によっては振り返りの時間をしっかり取って、書くことへの抵抗感というか、そういうところを大分改善されてきてると。

これはもう、その学校だけではなくて小・中ほとんどの学校が振り返りで書くということ、すぐく力を入れていきますので、その結果が無回答率の改善にだんだんつながってきてるんだなと。

そういったところも捉えながら、綾瀬市型小・中一貫教育を進めていきたいと考えております。

以上です。

○教育長（袴田毅君）

他はいかがでしょうか。

田中職務代理人。

○教育長職務代理人（田中恵吾君）

資料の21ページに関わって、具体的には、綾瀬市の綾瀬型授業モデルと教育長からお話がありました、その一番下段の部分にある、家庭学習というのがございます。

3つの視点から書かれていますが、具体的にこれは提案されたものですが、何か取り組んでいる事例みたいなものが、承知していれば教えてください。

○教育長（袴田毅君）

教育指導課長。

○教育指導課長（春木純子君）

家庭学習についての御質問でございます。

まず家庭学習につきましては、基礎、基本の定着に向けた、そういったことに目的を置いた、家庭学習、宿題がまずございます。

そのほかに、今よく学校で見られますのが、単級というところをメインにした自主学習というところは、多く取り組まれていることと承知しております。

また、自学自習によって、子どもたちが自分で学習した成果をノートに書き上げ、そのノートを教室や廊下に掲示して、事例を広めていく、そのような取組を行っている学校もございます。

○教育長（袴田毅君）

田中職務代理人。

○教育長職務代理人（田中恵吾君）

21ページ、書かれているように、自分も小学校、中学校、学校としての、それから先生方としても、先ほどの表彰の例でもありませんけど、頑張っていっちゃって、かなり徐々かもしれませんが、改善が見られてきていると自分も理解しています。

ただ、今後は、この家庭学習を充実させることが、さらに、つまり、保護者、家庭、その時間を小学1年だったら10分、中学校以上は1時間以上か、その中身ですね。先ほどもおっしゃったように、自分で書いたり、読んだ感想文を述べたり、自分で考えて計画をする、こういう取組をやっぱり保護者や家庭にもっとPRしていけば、お互いに学校、子ども、家庭、三者が一体となってバックアップしていくということで、さらに改善が見られると自分は思っています。

だから、今後も、この家庭学習の取組について、注視していきたいと思っていますので、よろしく願いいたします。

以上です。

○教育長（袴田毅君）

他はいかがでしょうか。

（ 質疑等の有無確認 ）

○教育長（袴田毅君）

質疑がないようですので、第11号報告を終了いたします。

ここで、暫時休憩といたします。

（ 非公開の審議 ）

○教育長（袴田毅君）

以上で、本日の日程は終了いたしました。

これにて、綾瀬市教育委員会会議 12 月定例会を閉会いたします。

午後 2 時 24 分 閉会